

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

小学校の英語教育が変わる 各市独自の取り組みを実施

2020年度から、小学校の英語教育が変わる。これまで5年生から必修だった英語の学習が3年生からになり、小学校5、6年生では「教科」として成績がつく。今年度はその移行期間として、3年生から英語学習がスタートしている。北摂各市では、本格導入に先行してさまざまな取り組みが行われている。



摂津市「English day」の様子。ALTと1対1で会話し、ミッションをクリアできたらハイタッチ。



箕面市、小学校英語授業の様子。

英語に慣れ親しむために

高槻市、茨木市、摂津市の3市は、大阪府教育庁が開発した教材などを活用し、1年生から英語に触れる機会を作った。増えた授業時間は、朝の始業前の15分を利用するなどして時間を確保している。また、ALT(外国語指導助手)を派遣し、全学年が1日を通して英語を体験する「English day(摂津市)」や、「英語シャワーデイ(茨木市)」など、独自の取り組みも実施。いずれも、子どもたちが英語に慣れ親しむことを目指している。児童や教員も英語に慣れ、2020年度に向けてスムーズに移行できるよう、2年間の移行措置期間を効果的に活用したい考えだ。



高槻市で実施している、1、2年生の短時間学習「ショートイングリッシュタイム」。週2回程度、始業前から5時間目の前の15分間を英語学習にあてる。

独自性ある取り組みで英語が楽しいと感じる児童が増加

池田市では、2004年度に構造改革特区の認定を受け、全学年での英語学習がスタート。昨年度は全クラスに電子黒板を導入して、英語を音声や動画で学べる環境を整えた。一部の学校では、児童がネイティブスピーカーと1対1でオンライン英会話をを行うなど、コミュニケーション能力の育成に力を入れると同時に、全校で4技能を測定する民間の英語検定試験も導入し、バランスの良い英語力の育成を目指している。

吹田市では、昨年度までに市内全小学校が英語の教育課程特例校として文科省の認可を受け、1年生から英語学習をスタートした。また、4年生対象の「すいたえいごkids」、市内の全6年生対象にはEXPOCITY内のOSAKA ENGLISH



吹田市が行う「すいたえいごkids」(写真左)と「すいたえいごweek」(同上)の様子。

VILLAGEにおいて「すいたえいごweek」等の体験学習を行うなど、独自の取り組みを実施している。

箕面市では、2015年度から全学年で毎日英語学習の時間が設けられており、今年4月からは1年生も45分の授業が始まった。ALTは全小学校に2~4人を配置。国が実施する「英語教育実施状況調査」で箕面市では、「英検3級以上相当の英語力を有する」と判断された中学3年生の割合が70%を超え、全国平均の40.7%を大きく上回っている。

喫緊の課題は教員の指導力の向上

英語の授業は基本的に担任教員が行うため、指導力の向上が大きな課題だ。高槻市では、教員免許を有する「英語教育支援員」を採用し、全小学校への巡回支援を行っている。教材の研究や作成、担任の授業のサポートを行い、英語教育の充実を図る。豊中市では一部の校区で、中学校の英語教員が小学校で授業を行う「英語教育コアスクール」を実施。いずれも今後一層、教員研修を充実させていく考えだ。池田市は、「歌やゲームで英語を楽しむことを目指したこれまでの英語活動から、教科化することで評価の方法も変わっていく。その中で、子どものやる気をより伸ばすことができるよう、英語を使って誰かとつながる喜びを感じられる指導もこれまで通り大事にしたい」と話す。

シティライフ アーカイブズ

第29回 「カルピス」の生みの親・三島海雲



若き日の三島海雲

1878(明治11)年7月2日、現在の大阪府箕面市にある教学寺の三島法城の長男として生まれた。西本願寺文学寮で学んだ後、英語の教師になった海雲は、仏教大学(現在の龍谷大学)に編入。入学後間もなく、大学から中国へ渡ることをすすめられ、1902年、当時日本の青少年の憧れの地であった中国大陸に無限の可能性と夢を求めて渡っていった。

乳酸菌との出会い

仕事で北京から内モンゴルに入った海雲は、そこで「カルピス」の原点である乳酸菌と出会った。当地の遊牧民たちが飲んでいて酸っぱい乳を口にしたところ、そのおいしさや健康効果に驚きを受けた。長旅で弱っていた胃腸の調子が整い、体も頭もすっきりしたという。そ

の酸っぱい乳が乳酸菌で発酵させた「酸乳」だったのだ。

乳酸菌に着目し、商品化

中国での事業を手放し、1915年に帰国した海雲は、今までにない健康で体に良いものを多くの人に提供しようと思いい、内モンゴルで製法を学んだ酸乳の研究を重ね、翌年乳酸菌で発酵させたクリームを商品化した「醍醐味」を発売。さらに「醍醐味」の製造過程で残った脱脂乳を乳酸菌で発酵させた「醍醐素」を発売した。「醍醐素」を改良したおいしく体に良い飲み物として開発したのが、日本初の乳酸菌飲料「カルピス」だった。1919年7月7日の発売以降、「国民飲料」として愛される商品へと成長した。



発売当時のカルピス。現在、ゆかりの地である箕面市では、ふるさと納税の謝礼品として、カルピスの4礼品が取り扱われている。

箕面大滝ウェディング

大阪府箕面市の大滝前で5月12日、「明治の森箕面国定公園」指定50周年を記念した結婚式、金婚式が行われた。市観光協会などの主催で、公園のイメージアップが狙い。費用は無料だが、挙式者には大滝に関する熱いエピソードや志望動機が必要とされ、結婚式は36組の応募者から滋賀県彦根市の中越雄平さん(29)と吹田市のゆかりさん(25)夫妻が選ばれた。二人はともに関西大学出身で、初めてのデートからたびたび大滝を訪れていたという。

まぶしい新緑の下、高さ30mから流れ落ちる滝の前で、二人は参列者約30人の前で誓いの言葉などを交わし、祝福を受けた。挙式後、ゆかりさんたちは



有線テレビのニュース番組でサプライズの「学長祝電」を披露する関西大学の吉岡さんと牧野さん(右)



参列者に祝福される中越さん夫妻

満面の笑みを浮かべながら「大切な思い出の場所で、たくさん大好きな方々に見守ってもらい、幸せ、嬉しい、感動の言葉しか出てきません」と話した。近くの音羽山荘で行われた披露宴では、二人の挙式を知った芝井敬司・関西大学学長から「お二人の聖地で挙式する幸せが永久(とわ)に続きますように」との祝電が届くサプライズもあった。

一方、金婚式は元校長や印刷業、飲食業を営む夫と妻の3組がそれぞれ紹介され、50年間ともに暮らした喜びを語りながら、互いにお礼の言葉を交わした。

[記事] 関西大学文学部3年次生 牧野花菜 吉岡梨奈